

胃がん検診(胃部エックス線検査)



今年度40歳以上の人(昭和56年4月1日以前生まれ)

《検診を受けられない人》

- 食道、胃、十二指腸のいずれかを切除した人(胃ポリープ切除は除く)
- 人工肛門を造設している人 ■酸素吸入を行っている人
- 腎疾患(人工透析)や心疾患などで水分制限を受けている人
- 過去にバリウムを誤嚥(ごえん)したり、バリウム・発泡剤・下剤でアレルギー症状があらわれた人
- 仰向け・うつ伏せになれない人、自力で立てない人や手すりをつかむことができない人
- 体重130kg以上の人(装置の耐荷重を超えてしまい、安全を確保できないため)
- 過去1年以内に消化器疾患で手術(腹腔鏡含む)を受けた人、消化器疾患で治療中・経過観察中の人(大腸憩室炎含む)

対象者

- 過去1年以内に大腸ポリープを切除したり、脱腸、腸閉塞、腸捻転になった人
- 過去1年以内に心疾患や脳血管疾患を発症した人
- 妊娠中の人、妊娠の可能性(不妊治療中の人を含む)がある人
- 検診当日までに3日間排便のない人 ■検診当日、糖尿病の薬を内服したりインスリン注射をした人
- 検診当日、体調が悪い人(寝不足、めまい、息苦しい、発熱、頭痛、吐き気、腹痛、下痢など)

《受診に注意していただきたい人》

- 何らかの病気で治療中・経過観察中の人：検査の可否、服薬等について主治医とご相談ください。
- 授乳中の人：母乳に影響のない専用の下剤をお渡ししますので、検診会場でお申し出ください。
- 次の人は主治医とご相談ください。
 - ・過去1年以内に消化器以外の開腹手術や開胸手術、骨折等の整形外科手術等を受けた人
 - ・認知症と診断されている人、ぜん息、在宅酸素療法などで治療している人
- ※上記に該当しなくても当日、技師が危険、撮影不可能と判断した場合、お断りすることがあります。
- むせやすい人、背中が曲がり、背筋を伸ばすのが難しい人
- メニエール病等強いめまいを伴う人

検診内容	問診・検診車での胃部エックス線撮影 バリウムを飲んでエックス線写真を撮ります。(係員の指示に従い、体の位置を変えながら撮影します。)
実施会場日程	6ページの実施会場・日程表をご覧ください。市内どこの会場でも受診できます。
受診料	1,000円 (受診料が無料になる場合があります。詳しくは35ページをご覧ください。)
申込み(受診方法)	申込みは不要です。下記の注意事項等をご確認の上、検診会場へ直接お越しください。 ※詳細は該当地区の受診期間前に「広報ながの」にあわせて「胃がん検診のご案内」を各世帯に配布します。
結果	郵送で通知します。(約1~2カ月後)

~胃がん検診を安全に受けていただくための注意事項~

○検診の前夜

- 夕食は夜9時頃までに済ませ、刺激物、喫煙は控えてください。飲酒はしないでください。水分は就寝前までは摂取可能です。
- 便秘等で下剤を常用している人は、前日から下剤を飲んでください。
- 入れ歯安定剤を使用している人は、検診前夜から検診終了まで、入れ歯安定剤を使用しないでください。
- 夜9時以降は大量の汗をかくような運動などは避けてください。

○検診当日の朝

- 検診終了まで飲食しないでください。脱水予防のため、200ml以内の水または白湯ならば、検診受付2時間前まで摂取可能です。
- 心臓病・高血圧・抗てんかんの薬は、検診受付2時間前までに200ml以内の水で必ずお飲みください。糖尿病の薬の内服やインスリン注射はしないでください。その他の薬を服用中の方は、主治医とご相談ください。
- 検診終了まで喫煙しないでください。ガムやあめなども避けてください。
- できるだけ排便を済ませ、激しい運動や仕事はしないでください。

○検診時の服装

- ボタン・ファスナーなどのプラスチックや金属がついていない無地のもの、ウエストがゴムのものであれば、そのまま検査を受けられます。金具類がある場合は検診着に着替えていただきます。
- 腹部を圧迫するもの(腹巻・ガードル・コルセット等)、エックス線写真上の障害となるもの(金具のある下着・磁気ばんそうこう・使い捨てカイロ・湿布・アクセサリー類・時計等)は、はずしてください。

○検診の後

- 下剤をお渡ししますので、検診終了後早めに必ずお飲みください。その後、食事は通常どおりお召し上がりいただき、白い便が排泄されなくなるまで、水分を十分取るよう心がけてください。
- 胃がん検診(胃部エックス線検査)受診後、肺がん検診を受診する場合は、7日以上空けてください。